



災害救援隊と木こりのマッチング

関係人口創出

アウルの森(愛別町)



アウルの森

- 愛別町29林班55小班、74小班、83小班の2.6ha
- 50年以上放置されていた平らな広葉樹二次林
- 土地の所有者と地域住民で、2021年度より多面的機能発揮対策交付金を活用して森林整備と森づくりを学びながら活動をしている。



活動内容：
自伐型林業の森づくりを参考に他団体に
学び道づくり、笹刈、枯損木の除去、択
伐を行う





参加者

天理教災害救援ひのきしん隊
旭川支部、上川支部、富良野支部

- フィールド

上川郡愛別町29林班55小班、74小班83小班
(2.6ha)



令和5年度災救隊訓練

旭川支部、上川支部、富良野支部合同



活動の意義

・ 訓練を通じて技術の向上と隊員の
安全意識の向上

・ 訓練を通じて各隊員の分担、指示
を構築し有事の際即効性のある活動
につなげる

・ 訓練を通じて必要な道具の選定や
管理を覚える



災救隊と自伐型林業 をマッチングすること で得れる効果

- 自伐型林業で使う技術はは小回りの効く小規模林業であり、有事の際災救隊の活動に活かすことができる。
- 林業経験者や、森づくりに長けている方を講師として呼び各隊員の技術の向上に貢献できる。
- 道具の選定、管理を覚え有事の際即効性のある物を各支部分担で用意できる。
- 各地域の山林を経験できる研修現場を用意できる。



林業に必要な な道具



基本的な自伐型林業で使う機械

1, チェンソー



2, 刈払い機



3, トラック (軽トラ~2トン車)



4, バックホー (4トンクラス)



5, 林内作業車



6, ウインチ



7, その他

- ・粉砕機
- ・グラブプル
- ・トラクター
- ・高性能林業機械

8, 燃料

- ・ガソリン・混合油・軽油・チェンオイル・ヤスリ等の工具

安全装備と服装

- ヘルメット：林内では必ずかぶります。フェイスガードとイヤーマフ（防音耳当て）付き。欧州ではあごヒモ禁止ですが、日本では逆にあごヒモ必須です。
- 防護ズボン・チャップス：綿状の強い繊維が挟み込まれ、チェーンソーの刃が当たると絡みついて回転を止めます。負傷の6割が脚部なので、義務付けとなりました。
- 靴：滑って転ばないことが第一。つま先や甲に保護板が入った防護型も。
- 手袋：軍手はトゲなどを防げないので、革手袋やゴム製にします。アクセル調整に指が動きやすものを。落とすと作業できないので、予備を持ちます。
- 上着：動きやすく目立つ服装を。ポケットはふた付き。シャツの裾やタオル、スマホのアクセサリーなどがチェーンソーに絡むと大事故を招きます。
- その他装備：腰ベルト、ショックレスハンマー、大小のクサビ、手のこ、スリングやロープ、フェリングレバー
- 医薬品など：一般的な傷薬、消毒液、絆創膏、止血帯など。虫や蜂刺されの時に使う吸毒器（エクストラクター）蜂刺されによるアナフィラキシーショックを緩和するエピペン、熊との遭遇時に有効な熊スプレーなど。



• 事前打ち合わせ・準備



- 講師：里山部 清水省吾氏
- テキストはもりねっと「森づくりとチェーンソー」を使用







午後から伐採木の搬出チェーンソーのメンテナンス及び目立ての仕方を学び感想などの振り返りをして閉会する。

まとめ

◎良かった点

- ・チェーンソーの取り扱い、木の切り方、メンテナンスなど基本を見直すことができた。
- ・このメニューのおかげで活動の幅が広がった
- ・お互いの交流をできてつながりができた。

◎反省点や疑問点

- ・今回は基本的なことで、参加者全員が同じ玉切りやメンテナンスの講習を受けていたが、作業になるともっと入念な段取り必要で、安全を守る為の場所の選定や準備が必要。
- ・対象参加者の地域の区切りが分かりにくかった
- ・最初10人以上の参加者はハードルが高いように思った。



ご清聴ありがとうございました

